

機内商品発掘に全力

琉大生

J T Aと琉大が包括連携

日本トランスオーシャン航空（J T A）と琉球大学観光産業科学部による包括連携協定締結を受け、琉大生5人が宮古島の調査・研究に取り組んでいる。J T Aの機内で販売する宮古島に特化した特産品の掘り起こしとWEBページの企画



J T A機内販売の商品を掘り起こしている琉大の二階堂さん（中央左）と照屋さん（同右）＝23日、宮古毎日新聞社

に励んでおり、23日から宮古島で現地調査を始めた。

機内で販売する商品の発掘に取り組むのは、二階堂

美南（みなみ）さんと照屋華楠（かなん）さん。W E Bは大濱里穂さん、仲村渠裕斗さん、梶祐太朗さんの計5人。それぞれ23日に調査のため宮古入りした。

このうち、機内販売商品担当の二階堂さんと照屋さん

が23日午後、宮古毎日新聞社を訪問し、商品掘り起こしへの意欲を語った。

2人は170人分のアンケートを取り、機内商品に関する乗客の意向を探ったという。二階堂さんは「機内販売を利用するのは沖縄本島と本土を結ぶ路線の乗客が多かった。そういった

県外の方に宮古島や沖縄の魅力が詰まった商品を届けたい」と語った。

照屋さんも「データを取ることではいろいろなお話ができてきた。魅力いっぱいの商品を旅行者に届けたいと思う」と抱負を話した。

J T Aの小浜塚也客室企画部長や波照間弘光宮土社長らも同席し、「国際会で活躍できる人材の音に努めたい」と包括連携の意義を強調した。

琉大生が選ぶ機内販売品は、9月1日から2カ月にわたってJ T Aの機内で取り扱われる。

宮古毎日新聞

6月25日（日） 6面